北河内自然愛好会 会報

2019年8月20日№.106
北河内自然愛好会発行
事務局：大東市野崎3-7-7
西畑敬一　方

ホームページアドレス：http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm

第405回例会　「淀川河川敷の植物」枚方市　2019年5月6日(月・祭)　　粟田泰子

京阪御殿山駅近くの店の前に総勢14名が集合、コンビニエンスストアの駐車場から早速観察が始まりました。コンクリートの隙間に生えているイトツメクサとハマツメクサとの種子の大きさが違うこと、郊外の田園で見られるツメクサとハマツメクサとの違いは種子の大きさではなく、種子表面の突起の有無であることなどを教わりました。

淀川に向かう農道では、大阪では絶滅危惧種のアサザは別として、オオジシバリ、ノミノフスマ、コオニタビラコ、ホトケノザ、コハコベ、イヌコハコベ、トキワハゼ、ヘビイチゴ、コメツブツメクサ、アメリカフウロ、ハルジオン、キュウリグサ、スズメノカタビラ、ウマゴヤシなどのお馴染みのものが当たり前に見られました。

淀川の堤防に上がる途中の草むらで田中さんがノハラツメクサを見つけ、木村さんがオオツメクサとの違いなど詳しい説明をしてくれました。堤防から河川敷の防災道に下りると爽やかな風が吹き、暑さを忘れました。

河川敷の道はオヘビイチゴが花盛りで目を楽しませてくれます。クサイやミコシガヤなどを観察しながらグラウンドの近くまで来ましたが、今日のお目当てのヒサウチソウは残念ながら草刈りで消え、セイヨウヒキヨモギのみ辛うじて認められました。ヒサウチソウが駄目でも、堤防斜面に群生するカラスムギを見たり、道沿いに広がった、冠毛の柄の長さが2種類あるヒメブタナや、クスダマツメクサとコメツブツメクサの花の大きさを見比べたり、グラウンドの片隅ではニチナンオオバコ、ハナビゼキショウ、ヤワラスゲ、コゴメイ、奥の草むらでホソイ、シラスゲ、アゼナルコなどを教えて頂いたりで、皆さんそれぞれに楽しまれていました。この辺りでは珍しいノニガナも見られました。

淀川河川敷は元々樹木の種数が少ない上に昨年の台風被害が酷く、益々貧弱になりました。トウネズミモチ、エノキ、ムクノキ、センダン、マルバヤナギ、オオタチヤナギ、マユミ、アカメガシワ、シンジュ、マグワ、ハリエンジュ、ナンキンハゼが多く、つる植物のセンニンソウ、アケビ、ミツバアケビ、テイカカズラもよく見られます。アレチウリ、クズ、カナムグラ、ヤブガラシも間もなく出てくることでしょう。とはいえ、薄茶の涼しげなコバンソウ、紫色の華やかなナヨクサフジ、紫色や薄紫色のニワゼキショウ、黄色いオヘビイチゴ、花が白く香り高いノイバラやハリエンジュなど、この季節の妙が感じられました。センダンも蕾をつけていました。他にタマオオスズメノカタビラ、シナダレスズメガヤ、ヒメコバンソウ、ネズミムギ、イヌムギ、ミヤコグサ、コマツヨイグサ、ユウゲショウ、ヘラオオバコ、ツボミオオバコ、ナガミヒナゲシ、メハジキ、ツルニチニチソウなども道沿いで挨拶していました。

防災橋のたもとにはシナサワグルミがたくさんの花かんざしを垂れていました。淀川河川公園に入るとグッと行楽ムードの賑やかさ。オオヨシキリも草むらで賑やかです。シロバナタンポポを愛でた後昼食。ギンドロの木陰でお昼の休憩タイムを取りました。田中さんが徒長して長さ60cmもあるタンポポの茎を見つけてきて、セノタカイタンポポといって話題と笑いを提供しました。

昼食後、芝生に蔓延るメリケントキンソウとトゲミノキツネノボタンが嫌でも目に付く中で田中さんが目敏くノミノハゴロモグサ(別名イワムシロ)を見つけ、大喝采でした。枚方大橋の下まで行くことになり、公園の中を三々五々歩いて行きます。まだ午後も早いのに雪のように白い花のセッカニワゼキショウは早々と店じまい。代わりに芝生の上を白一色で楽しませてくれたのはシロツメクサでした。

河川公園も下流に来ると、葉っぱは小さいがシロツメクサの葉っぱと近似していてそばかす模様があり、花が薄桃色のダンゴツメクサ(頭花の形が団子状)、赤い花のキクノハアオイが沢山見られました。最後に枚方大橋の所で木村さん発見の、北河内では初見のホソエガラシと序にヒゲナガスズメノチャヒキを観察。バーベキューの臭いと人混みの中で異様な私たち一行は直ぐに退散しました。

枚方大橋のところで一旦解散してからコバノニシキソウを見て最寄り駅に向かいました。

淀川は植物もさりながら昆虫や野鳥も多く、今日はツバメ、イワツバメ、ヒバリ、キジ、ウグイスが肉眼で見られました。テントウムシの仲間、ハムシの仲間、ヒカゲチョウの仲間、シジミチョウの仲間、カメムシの仲間が沢山いました。

田中さま、木村さま、お世話になりました。

◎今日見たその他の植物：ムシクサ、カラムシ、ハハコグサ、ウラジロチチコグサ、ムラサキサギゴケ、タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ、ダキバアレチハナガサ、トウバナ、スズメノテッポウ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、カスマグサ、ヒナキキョウソウ、ヒナギキョウ、ノブドウ、オヤブジラミ、ヤエムグラ、オオニワゼキショウ、カタバミ、オッタチカタバミ、ナズナ、マメグンバイナズナ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、カミツレ、ツルマンネングサ、アオスゲ、ノヂシャ、ムラサキツメクサ、アキニレ、オオカワヂシャ、カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ、ネバリノミノツヅリ、メドハギ、アメリカネナシカズラ、コナスビ、カズノコグサ、ヒエガエリ、ノアザミ、マメグンバイナズナ、ニガナ、チガヤ、セイタカヨシ、オオシマザクラ、ホソバツルノゲイトウ、マツバウンラン、クサギ、スカシタゴボウ、シロバナマンテマ、メマツヨイグサ、ヒメオドリコソウ、ノゲシ、スイバ、オランダミミナグサ、アレチギシギシ、セイヨウカラシナ、コセンダングサ、スズメノチャヒキ、アキグミ、サルトリイバラ、ワラビ、ノチドメなど

◎参加者：粟田泰子、安藤香子、磯田　恵、稲原良三、狩野登之助、北川ちえこ、木村雅行、桑原秀晃、里見　修、高見君江、田中光彦、長島照文、西尾フミ子、西畑敬一　（以上 14 名）

第 406 回例会「交野・旗振山ツチアケビに参加して」交野市　2019 年 06 月 22 日　　稲原良三

＜はじめに＞

前日は雨の予報のためどうなることかと悩まされていましたが、9 時 30 分の津田駅集合時には予報も好転してくれて、参加の皆さんとの挨拶の折りには悩ましい雨予報のことなどすっかり忘れていました。6 月末とはいえ当会の歩行ペースでは 5 時間を超える可能性があり熱中症の対策をお願いして、水分量の確認とこまめに水分補給を実行する注意喚起で 14 名がスタートしました。

コース概要と観察の様子

① 津田駅～国見山登り口

駅改札を出てすぐに右側から U ターンして地下道をくぐり抜け山側に出ると「こじんまり」としたロータリーの有る駅裏になる。ビル、マンション、住居に囲まれたコンクリート公園の一角にシマトネリコの大きな街路樹の上部枝先に円錐状の白い花が見える。ビル群を抜けて大池までは田畑の残るあぜ道、土手道を観察しながら歩く。

正面に国見山、右手に交野（こうの）山を望みながら閑静な住宅地のアシの有るガラト川筋を、左手の方の登り口をめざす。

② 国見山登山口～白旗池ふれあいセンター

3 台ほどの駐車スペースのある登山口から山に入る。山尾根を削って作られた津田サイエンスヒルズの南側、谷筋コースでハリエンジュ（ニセアカシヤ）がやたらと多い。おかげさまで木陰の中を行くことが出来る。珍しくタケの花に出会う。花が咲くと枯れて、元の竹林に戻るのに 50 年かかるそうだ。

右手に国見池を見て左手の視界が開ける。サイエンスヒルズの最高部になる。そこには各事業所のビルが有り山中のつもりが現れたビル施設に意外性を感じる。そこからなだらかで真っ直ぐな登りが続き本当の山中になる。また広い谷筋になってスギ・ヒノキ林の中を吹き抜ける風が心地よい。

右尾根上方に有る夫婦岩の下を通過して津田城祉曲輪跡を過ぎると登り坂は中盤を過ぎる。右尾根に有る国見山（枚方八景の一つ）の谷筋を登り切ると視界が開けて尾根筋になる。その間に水分補給に何回か小休止する。アケビが緑色の成長過程の果実を十数個つけていた。

そこからはほぼ水平歩行の変化有る山道で野外活動センター分岐を右に行き、ゴルフ場下のトンネル迄の少し手前に白く大きなササユリを観察して、白旗池ふれあいセンターで昼食の弁当を戴いた。

③ 白旗池～旗振り山管理道

白旗池に隣接するゴルフ場の侵入路をゴルフ客の車に気をつけて歩き郡南街道に出る、50m程西に下り交野傍示方面の管理道に入る。

この頃、日差しの強さ、舗装路の照り返し、食後の急な登りに日陰を求めて休憩を取りながら。旗振山の管理道まで行くと　樹林脇に高さ 40ｃｍ程の焦げ茶色の茎に黄褐色の花を付けたツチアケビが 5 本今年も無事に育っていました。

今回の観察目的に成るだけ有って光が当たると黄金色が格別だった。図艦によると葉緑素を持たない腐生ランということで色や形が腐（腑）に落ちた。めしべが奥まっていて受粉しにくく、たくさんの花が咲いても実になるのは少ないと西畑会長より説明を聞いた。秋にウインナーソーセージに似た赤い果実がぶら下がるそうで、その頃に又、観察したいと思う。

④　旗振山管理道～傍示～天田神社（河内森・河内磐船）

幅 4m位ある管理道の両側からカラムシ、アカメガシワなどが道をふさぐように中央よりに成長する中を右寄りに、あるときは左寄りに緩やかな下リを傍示まで進む。周辺の耕作地は多くは放棄され、昔にはササユリの群生地も途絶えてしまっているそうだ。それでも、ハチク林を見つけると手際よく自然の恵みを戴いて、棚田の田植え後の景観を心地よく感じながら天田神社迄の舗装林道をぐねぐねと帰路に向った。

＜終わりに＞

暑い中、約 10ｋｍのコースを有り難うございました。

このコースはベテランの方々にはおなじみですが、枚方、交野の 4 山「国見山 286m、交野山 344m、旗振山 345m、龍王山 318m」の頂上を登ること無く巻き道をとる事が出来る、比較的緩やかで木陰が多い夏向けコースです。又、春、秋、冬もその季節ならではの自然を楽しめる特徴が有ります。①～③はおおさか環状自然歩道に指定され道標や案内が設置されてルートが解りやすく、④は里山の自然を堪能出来ると思います。

〇その他観察植物名

ユウゲショウ、コジキイチゴ、ムラサキニガナ、キツネノチャブクロ、サジガンクビソウ、ガクアジサイ、タツナミソウ、ミヤマナルコユリ、エノキ、ヒトツバタゴ、キッコウハグマ、

アサザ、オカトラノオ、ヒメジオン、ブタナ、オオマツヨイグサ、エノキ、ムラサキシキブ、ヒメコウゾ、ミドリハカタカラクサ、ノハカタカラクサ、ミズヒキ、ヤブニッケイ、ツルニンジン、ナガバハエドクソウ、

◎参加者：稲原ヒサヱ、稲原良三、磯田　惠、遠藤エチ子、大津由紀子、高見君江、田中光彦、長島照文、中町苓子、中山千代美、西畑敬一、西村寿雄、波多野恵子、発ひとみ（以上 14 名）

第 407 回例会「金剛山麓の植物」2019 年 7 月 28 日（日）　　田中光彦

河内長野駅前発のバスは日曜日でもあり 15 分毎にでており、ロープウェイがストップしていることもあって、10 時過ぎのバスの乗客は思ったよりも少なく、全員が座れた。

鳩の原バス停の少し手前で路肩に車を停め、お婆さんが孫と思われる男に路傍に咲いているヤマユリを採ってもらっているところが目に入った。思わず採ったらあかん、と叫んでしまったが、バスの中なので聞こえるはずもない。すぐにバス停に到着し下りるとさっそくシンテッポウユリの花を見つけた人がいた。

木陰の多い舗装道路を歩き始めると道の両側にウバユリが点々と見える。ハエドクソウ、ミズタマソウ、逃げ出しと思われるボタンクサギ、カワラナデシコ、ホドイモなどの花を見ながら歩く。河内長野市鳩原と千早赤阪村小吹との境界あたりまでくると、道の両側が草刈りされたばかりで、つぼみや花盛りのウバユリが 20 本ばかりも株元から刈り取られて他の草と一緒に打ち捨てられていた。参加者一同、我がことのごとく嘆き、ウバユリもユリの仲間と言って拾って持ち帰る人もいた。その人を後ろから見ると、歩く姿はウバユリの花だった。道端のオニユリの花も刈られたものが何本かあり、持ち帰る人やむかごを集める人がいた。この辺りではヤマユリ以外のユリは単なる雑草扱いのようだ。拾った花は見えないように隠して持っている皆さんはやはり賢者だった。そのうち目の前にヤマユリの集団が咲き誇っている所があり、みんなでしっかり観察、堪能して行く。満開のオニドコロやミョウガの花、マタタビの実、テンナンショウの実などを見て昼食にする。そこにはトキリマメも咲いていた。参加者の一人のキューリー夫人が、冷たくて美味しいキューリのなが～い浅漬けを持参されていて、皆で美味しくいただいた。

昼食後、ウマノスズクサの群生地で花を探したが見つからず、代わりにカラスビシャクの花が咲いていた。ヒヨドリバナやヌスビトハギの花を見て本日のメイン、ヤマユリ通りにさしかかる。道路左側の斜面に多くのヤマユリの花が見える。近寄るとウバユリの花も混ざっていた。今年はしっかりとヤマユリの花を見ることができて良かった。参加者は皆目の前になくても、あの黄色の線や赤い斑点も含めて

ヤマユリの花を描けるようになったに違いない、と思うことにした。この後立派なヤブカンゾウとオトギリソウの花を見て橋を渡り、帰路に就く。浄照寺の角で近道を選んでやぶの中の道を歩いた。その時「マムシに注意」と言いながら、今日は一度も長虫に出会わなかったなあと、ふと思いながら、先日読んだ本にシマヘビは白身で、ニンニク醤油でつけ焼きにすると旨いと書いてあったことを思い出した。ヒメヤブランの花などを見て木陰の道をすいすいと歩いて東阪バス停に着くと、バスが止まっていて後3分の2時30分に発車という。まことによいタイミングだった。
◎参加者：粟田泰子、安藤香子、岩井幸恵、影千恵子、狩野登之助、高見君江、田中光彦、長島照文、中町苓子、奈良敏子、西畑敬一　(以上11名)

《会員交流コーナー》＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
§§＜キジバトの餌台＞野鳥は今、繁殖期、子育て中で、庭の餌台には姿をあまり見せなくなりましたが、キジバトだけは、我が物顔。今日は3羽が訪れ、餌を食べつくしました。キジバトだけが“ナンデヤネン”。キジバトは親鳥が半消化した餌を吐き出して口移しに与えて子育てをするので、他の鳥のように、今の時期だけで子育てをしなくて済むから、この鳩は今子育てしていない。自分の餌だけ気にかければよいのです。（平　研・5/2）

§§＜茶の里，和束をドライブ＞連休で息子が家族連れ立って帰ってきて、車椅子を積んで、婆さんもみんなで茶の里の和束へとドライブしてくれました。和束に入ると、行けど走れど丘や山の斜面は茶畑ばかり、その上をトンビが輪をかいていて、時折ウグイスの声だけが聞こえました。（平・5/4）

§§＜アメンボの食＞今日午前、マイタイム。植物園までムシと会いに行きました。思いがけなく、アメンボ7羽がトンボに群がる食事に出会いました。アメンボは水面に落ちてきたムシを食べる食虫のムシ（カメムシの仲間）。このトンボは食べ応えがあるでしょう。小さなムシたちの生き様、励まされます。（平・5/8）

§§＜こんなものが＞昨日、午前は私の時間、星田園地までバイクを飛ばして、ムシとハヤブサを訪ねました。駐車場からの架道の手すりにはケムシ、イモムシが一杯。その中にこんなものが、ドッキリ。「ミノムシがケムシを食べている」。木の葉っぱを食べるミノムシがケムシなんかを食べるはずがありません。ある偶然がこんな場面を作り出したのかとしか、考えられませんでしたが、「天がこんな場面を私のために用意して、私に緊張と、刺激を与えようとしてくれたのか｝。歩けば棒に当たるです。ハヤブサは見えませんでした。（平・5/21）

§§＜今日の出会い＞今日のマイタイム、星田園地を通り越して、磐船神社へ行きました。神社の付近は、鳥、魚、ムシに変わった面白さを見せてくれるところで、チョイ、チョイ行くところです。今日は、シュレーゲルアオガエルが待ち構えていました（添付）。外敵をハネ返す力や手段を持たない弱いものが考え付いた最後の手段、周囲の色に同化して身を隠す、哀れにもお見事です。しばらくお見合いしました。（平・5/27）

§§＜八重咲きムラサキカタバミ＞ムラサキカタバミの花が身近なところで多く咲いています。今日は穂谷でも雄しべが花弁化した八重咲きのようなムラサキカタバミがあちこちで見られましたので紹介します。2段咲のものも田中光彦さんが見つけられました。少し楽しんでしまいました。（木村雅行・6/1）
§§ 珍しい花の紹介ありがとうございます。今迄意識していませんでした。これは、自然に起きてきた交配、突然変異ですか。それともだれかが交配したものですか。（西村寿雄・6/2）
§§ 掲載したムラサキカタバミは自然にできたものだと思います。最初にこれはとても珍しいものだ、よほど気をつけて観察しなければと皆さんに説明したものの、歩けば次から次に見つかってしまい値打ちが下がってしまいました。同じ株でも花ごとに程度の違いがあったり、正常な花もついていたりこの形質はあまり安定していないようです。（木村・6/2）

§§＜ラミーカミキリ＞今日は4輪でくろんど池へ（電池対策ドライブ）。引き返して磐船神社駐車場でムシ探し。待ち構えていたのはラミーカミキリでした。カラムシなどの草を食べる小さなカミキリムシで、江戸時代から明治にかけて中国方面から渡ってきたものとか。ジャイアントパンダを思わせる大きな目玉模様。スカッと頼もしいムシです。（平・6/24）

§§＜犬も歩けば＞月、水、金、土の午前中は老老介護の束縛から解放されて我が時間（家内はデイサービスへ）。老犬は車で歩き始めました。昨日の朝、磐船街道を田原へ、田原から引き返して磐船神社へ、駐車場の山側の籔、神社前の谷川では、いろいろな鳥、ムシたちが待っててくれました。その中から･･･。
1、ハグロトンボ＝わたしの姿を見て、翅を開いたり、閉じたり。私への歓迎の挨拶か、近寄るなとの威嚇か。体は青光り、翅は黒光り。お盆の前に出てくる真っ黒なトンボなので、祖先の霊が姿を変えて里帰りとか、田圃の神、神の神聖な生き物と言われたり、外国では魔女の使いとも言われたり、その姿に漂う異様な雰囲気は、人間に様々な思いを抱かせています。
2、その他、オニグモのサツマノミダマシ、シオヤアブ、カルガモ、ラミーカミキリなど。（平・7/9）

§§＜星田園地＞投票の帰り、久しぶりの星田新池への坂を上りました。道端の籔にムシを捜したが、いたのはジョロウグモの子グモが２０匹ほど小さい巣を張っている姿だけでした。だが、よく見ると、それらの巣には一つも餌がかかっていませんでした。自分からは餌を取りに行かないので、餌がかからなければ何日も空腹に耐えねばならない。餌がかかればグルグル巻きにして保存食にする知恵を働かせてはいるが、厳しい生き様ですね。池にはカイツブリが１羽、ゴミの間から顔を出したりしていました。（平・7/21）

§§＜今日の出会い＞今日で迎えてくれたのは、ベッコウハゴロモ、ワキグロサツマノミダマシ、アオサギでした。ベッコウハゴロモは、幼虫時代のお尻から出している光線の束のようなケバケバしさは全く失われていて、蛾の仲間のよう。夜行性のワキグロサツマノミダマシ（クモな仲間では最も綺麗な色でお化粧）しておりました。昼寝中、突然飛んできたアオサギは、斜め上から見た姿なのであろうからか、その首の長さにビックリ。（平・7/26）
§§＜追伸、アオサギの首＞この長い首、水中に立ち入って、逃げる魚をパクリと捕まえるには、首が長いほど効果的でしょうが、これ以上長くすると、飛ぶときに頭が重くなり、支えきれなくなる？これが限界でしょうか。サギの仲間のそれぞれの首の長さ、それぞれがどんな餌をどのように捕獲してるかなどと合わせて考えたら、興味深いですね。サギを見るのが面白くなりますよ。（平・7/26）

§§＜トモエガ＞今日も磐船神社に立ち寄り、せせらぎに降りて行ったら、突然目の前に飛んできて私をにらみつけた１匹のガ、ぎょっとしてよく見たら、毒を持つトモエガでした。私は写してすぐ、その場を立ち去りました。私に何か言いたかったのかな？（8/3・平）

§§＜本の紹介＞南方の植物好きのみなさま、天野です。下記の図鑑が南方新社から発売されます。割引価格で入手できます。以下転送
新刊『琉球弧・植物図鑑 from AMAMI』刊行のご案内
冠省
平素は、図書出版南方新社の出版活動にご理解、ご支援いただきましてありがとうございます。
　さて、小社では、この度、標記の本を刊行致しました。
　『琉球弧・野山の花』の著者が、満を持して刊行する 800 種を網羅する本格的な琉球弧・植物図鑑です。鹿児島県絶滅危惧１類（環境省カテゴリーの絶滅危惧１類Ａと同１類Ｂに対応）だけでも 115 種が含まれます。今現在、琉球弧の植物（木本、草本、シダ類）全般を扱った本格的な植物図鑑はありません。その意味でも、琉球弧の植物に興味を持ち、名前を知りたいと願う方々や小中学生の野外学習活動、自然保護活動や自然観察ツアーガイド、公共事業等によるアセスメントに関わる方々の座右に必須の一冊です。この注文票にて返信・ご注文の場合は、1.特価、2.送料無料、3.郵便振込用紙同封にてお送りいたします。よろしくご検討ください。定価 4,104 円（税込）を特価 3,200 円（税込）（注：注文票別途）（天野史郎・8/5）

◎異動：ありません

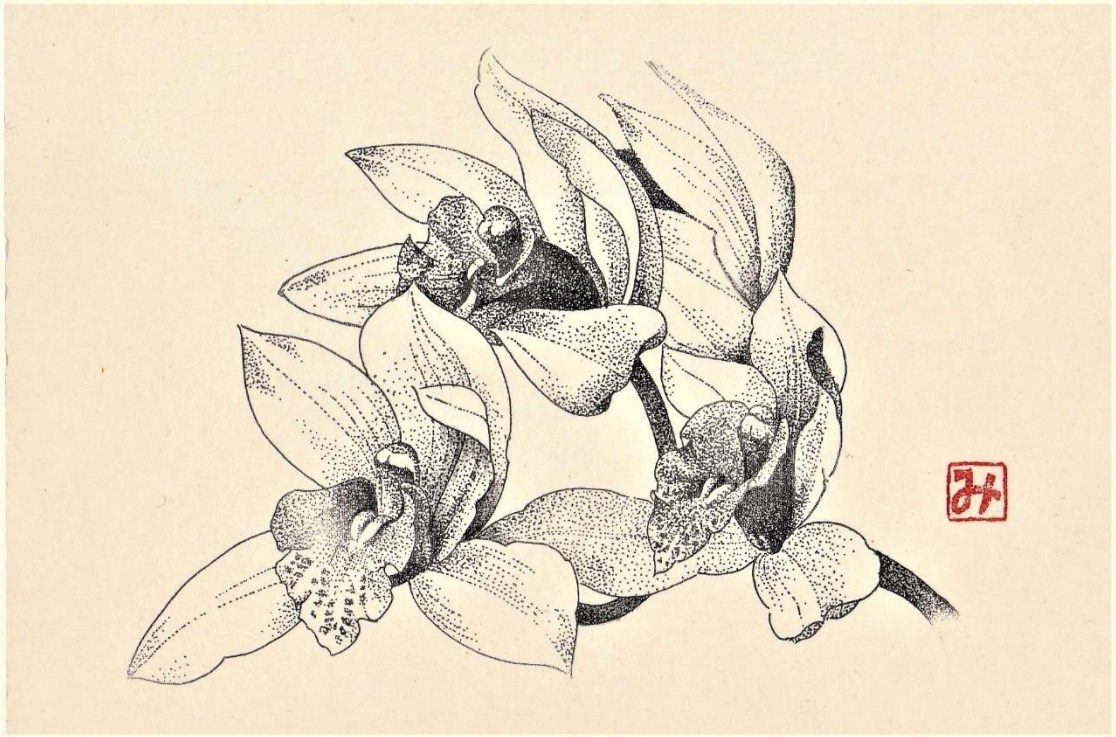
◎編集後記：北河内自然愛好会会報は今号で 106 号となります。1985 年 12 月 20 日第 1 号発刊。爾来 34 年、営々と繋がれてできました。草創期からの西畑会長や先輩諸氏の労苦の賜だと思います。そのような会報の編集に携わらせていただいて光栄に、またボケ防止にもと思っています。が、私も今年で後

期高齢者の仲間入り、77 号、2009 年 12 月から約 10 年、水戸の黄門様ではないけれど「もう、いいじゃろ」のお声がほしいところです。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。（太田）

【諸連絡の窓口】　◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114
◇会費の納入・会計に関して：稲原良三　072-892-8507
◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665　会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。　ma36ux75ml@kcn.jp　〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会　年会費 1000 円　郵便振替　00970-4-103735

目　次

第 405 回例会「淀川河川敷の植物」粟田泰子----------1
第 406 回例会「交野・旗振山ツチアケビに参加して」稲原良三----------2
第 407 回例会「金剛山麓の植物」田中光彦----------3
会員交流コーナー----------4
異動、編集後記----------5
カラ―グラビア版----------別刷
例会案内----------別刷

岡田三千代さん画「シンビジウム」-
（カラ―グラビア版でご覧ください）